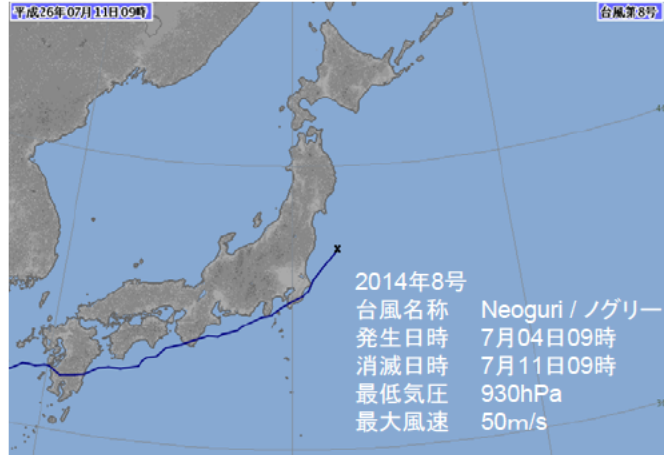


台風8号の直撃免れる！

揖斐川・杭瀬川で「レベル2」洪水発生

- 7月4日に発生した台風8号。台風の影響により、南から湿った空気が大量に流れ込み、梅雨前線が刺激され、日本各地で大雨をもたらしました。東海地方は幸いにも台風8号の直撃を免れ、東海沖を東進したため、甚大な浸水被害を回避することができました。

今回、揖斐川上流域の累加雨量（久瀬）は400mm程度、杭瀬川上流域の累加雨量（赤坂）は130mm程度で、水位は上昇したものの、河川氾濫の発生に注意を求めるレベル（はん濫注意水位：レベル2）の洪水で終わることができました。

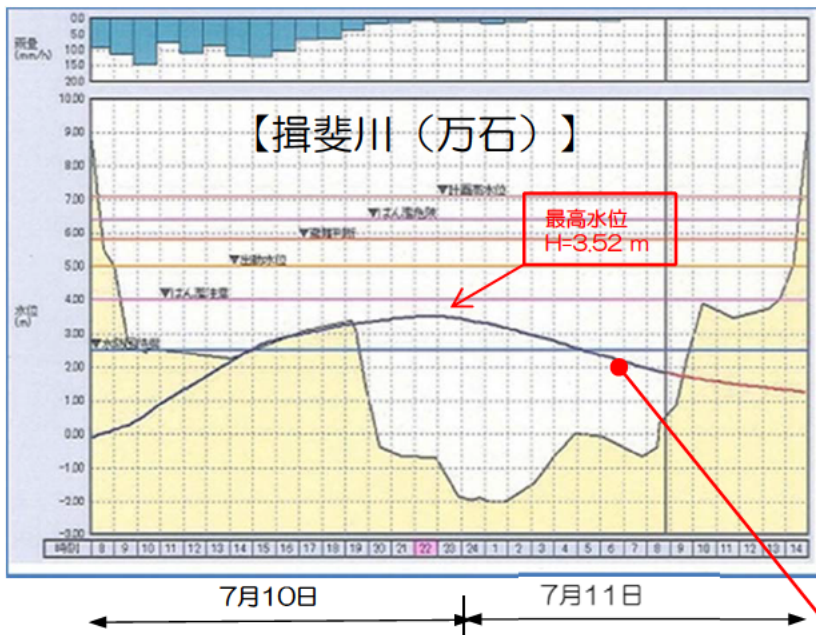


出典：気象庁（台風の進路経路図）

台風8号で濁水、「一気に解消！」

- 今年は、4月、5月以降の少雨により、河川の流況が悪化し、長期間にわたり、河川の流量が減少していたため、上流ダムからの補給を実施するとともに、6月27日からは、「木曾川上流河川事務所濁水対策支部」を立ち上げ、河川や降雨の状況、ダムの貯水量等の監視を強化してきました。

今回、台風8号に伴う降雨等により、厳しかった河川の流況が改善し、今後の継続的な降雨により更なる回復が望めることとなったため、7月11日14時をもって、同事務所濁水対策支部は解散されました。（<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisoixo/>）



河川流量が減少している状況 揖斐大橋（万石地点）
河川水位 -1.01m（6月30日 10時00分撮影）

約3.2mの
水位上昇

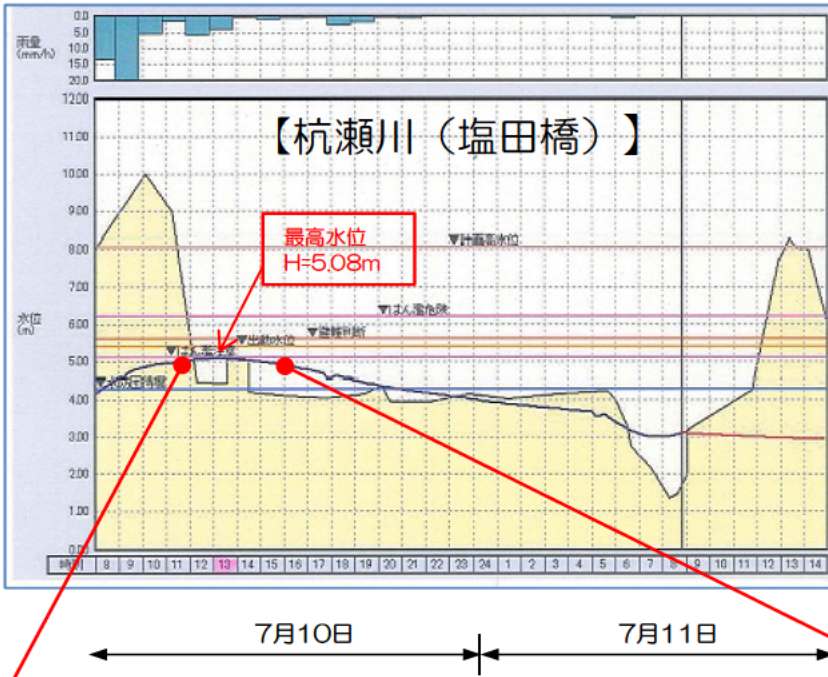


揖斐大橋（万石地点）の増水状況
河川水位 2.16m（7月11日 7時00分撮影）

緊急パトロールで安全を確認！

- 揖斐川第二出張所では、洪水の状況に注視しながら、堤防（漏水・洗掘等）や流水の状況、及び、河川管理施設や許可工作物等の状況などを把握するため、職員及び委託業者による出水時巡視（緊急パトロール）を行い、現場からの無線報告によって異常がないかを速やかに確認しました。

また、併せて、管内市町村の内水被害等の発生状況を確認し、緊急時における排水ポンプ車等、災害対策車両の出動要請の必要性について確認を行いました。

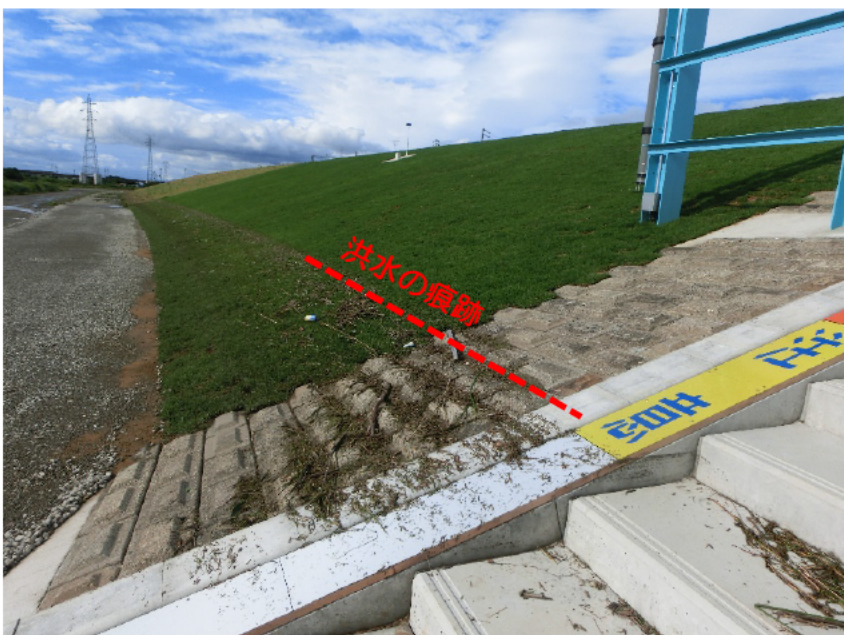


旧塩田橋付近の増水状況（7月10日 10時30分撮影）



増水時の緊急パトロール（7月10日 16時30分撮影）

洪水痕跡が裏付ける最高水位の妥当性



杭瀬川（塩田橋水位観測所）に残された洪水痕跡

- 洪水やそれに伴う氾濫が生じた後、堤防斜面や地上の各種の工作物に、変色した部分や、ゴミなどが残っている場合があります。これは、洪水の痕跡を示し、実際にどの地点まで水位が上昇したかを裏付ける、とても貴重な証となります。

今回、台風8号による洪水で、塩田橋地点の最高水位はH=5.08m（はんらん注意水位H=5.10m）と計測されていますが、これは、現地に残された洪水痕跡から見ても妥当な水位であったことが分かります。